

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104538		
法人名	医療法人 潤生会		
事業所名	たかまつグループホーム		
所在地	和歌山県和歌山市西高松1丁目5番36号		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3070104538-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気作りや、毎日ご利用者様と話をし、笑いあうことを心がけています。コロナウイルス感染予防のため散歩や外出は行えていませんが、毎日できる限りでの体操等をして体を動かす機会を作っています。時々ご利用者さまのご意向を聞き、ドライブ会をしたりして気分転換をしていただけるようにしています。たかまつグループホームは、職員に看護師を配置、また訪問看護ステーションとも連携し、緊急時でも母体である宮本医院からの往診ができ、速やかに治療につなげることが可能です。医療ニーズの高い利用者さまの受け入れも積極的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは家庭的な温かい環境づくりに努め、尊厳を大切にしながら利用者一人ひとりにそった支援に取り組んでいます。コロナ禍で外出が難しい状況ですがドライブで車窓から季節を感じてもらったり、懐かしい場所を通る等工夫し、ホームの中でも日に3回体操をしたり、2階の廊下での歩行、その他生花等のレクリエーションを取り入れながら過ごしてもらっています。また職員の離職が少なく馴染みの職員での支援にあたっており、職員は利用者の担当をはじめ、研修や行事、毎月の家族へ送付の便り、防災等担当を担い役割を持ちながら主体的に行動出来る体制となっています。母体の病院が隣にあり、職員に看護師の配置があると共に必要に応じて訪問看護による処置もあり医療連携が図られ、看取り支援についても家族の意向に添いながらチームで取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”一人一人に愛情をこめて”という理念のもと、自分の家族だったらどう思うか、ご本人様の生きがいや楽しみを見つけることをスタッフ間で話し合い、日々のかかわりの中で取り組んでいます。	ホーム独自の理念を掲げ、玄関やスタッフルーム等目に付く所に掲示するとともに書面にして職員に配布し確認してもらおう等意識付けを行っています。会議は現在カンファレンス等書面で行っており連絡帳も活用しながら運営や支援について意見を出す際や日々利用者に関わる際には理念を念頭に置き実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防のため、以前行っていた散歩等へも行けず、交流は行えていません	コロナ禍の現在地域との交流が難しい状況ですが、買物の際は職員が近くの馴染みのスーパーに行ったり、近隣の方に出会った際には挨拶をしています。また民生委員が交代になった場合は挨拶に行ったり、電話を通して話をする等関わりを持てるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスが流行してくる前までは、ご家族様や会議の参加者に機会があるごとにお伝えしていました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の利用者様の様々なことを報告しています。ご家族様への連絡時、個々にご意見を聞かせていただく等をし、日々の業務に反映させ、サービス向上に努めています。	会議は通常2カ月に1回家族や民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催し、ホームの近況や予定等報告しその時々の議題について話し合ったり、勉強会等を行っていました。コロナ禍では職員間で開催し、議事録については家族や地域包括支援センター職員に送付する等報告してもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実際のサービスの中で疑問があれば電話で問い合わせる等、つながりを大切に、指示や意見をいただきながらケアに取り組んでいます。	不明な点があれば行政に電話で聞いたり、研修があった際は参加をしていました。注意喚起等についてはメールや書面で届き、マスクや消毒液の配布があった際には受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームのスタッフの中から身体拘束委員を選出し、委員で研修内容等を検討し、スタッフ全員で年に2回研修を行っています。玄関の施錠についても入居時に説明を行い同意を得ています。	身体拘束委員を中心に年に2回研修がありコロナ禍では書面で行い、身体拘束適正化委員会は3カ月に1回実施しています。言葉による行動制止については待ってもら理由等具体的に利用者に伝えるようにしており、不適切な場面があれば職員間で注意し合っています。玄関の施錠については家族の同意を得ており、外に行きたい様子があれば付き添い外気浴をもらい気分転換を図ってもらっています。	

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で研修、会議等で話し合う場を作り、利用者様のケアに生かしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については以前利用されていた方もおられます。必要性があると思われるときには支援をしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご本人、ご家族様と面談し、契約について不安や疑問点について十分に説明させて頂いております。内容の改定時には新たに説明させていただき、ご理解頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置しています。またアンケートを実施、ご家族様とお話させていただく際に直接ご意見を聞かせていただいています。アンケートや普段の取り組みについてもその都度報告させていただいています。	利用者の要望は日々の関わりの中で聞いており、食べたい物等の希望があり押し寿司やおでん等を作ったり希望のおやつを提供をしています。家族には毎月便りや毎日利用者の様子等を一行書きしている書面を送付し、写真や手紙、利用者の塗り絵の作品を送付しています。訪問時や電話、家族アンケートから意見を聞いており、日に3回行っている体操や廊下での歩行等下肢筋力維持のため行っている事を伝えながら評価をもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常業務の中で各職員が活発に意見を発言し、日々の運営に反映させています。	現在毎月の会議は書面で行い職員一人ひとりが意見を出し、連絡帳も活用しながら気付いた事等を記載しケアの統一を図ると共に情報の共有を行っています。研修や行事、毎月の便りのデザインや一言記載等職員が担当し、また物品購入等主体的に行ってもらっています。管理者は日々の中で職員とコミュニケーションを取り意見を言いやすい環境作りに努め、必要に応じて面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	限られた環境の中ではありますが、年2回の人事考課を行う等をし、やりがい向上心をもって働ける環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年の外部研修には参加できていません。スタッフ間で研修を行い共有を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状は研修棟の参加は行けず、同業者との交流もなかなか困難な状態です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用いただく前にご本人と面談し、ご要望等を聞かせてき、いろいろお話をしながら少しでも不安等を軽減し安心してご利用いただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用いただく前に、ご家族とも面談し、心配事や要望等を聞かせていただき、それに応じた説明をさせていただき、安心してご利用いただけるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、職員だけでなく医師、看護師、理学療法士等とも話し合いを重ね今必要な支援について検討し対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テレビ、新聞、雑誌等を見ながら最近のいろいろな出来事のお話をしたり、昔の思い出話をお聞きしたり、利用者さまとの会話を大切に、支えあう関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ともケアについて相談し一つ一つ理解しながらご本人、ご家族、職員が一緒に笑いあえる関係作りに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所への散歩、ご家族様の面会が困難な状況が続いています。ご利用者様に要望をお伺いし、ドライブ等へ出かける等の取り組みを行っています。	コロナ禍で面会や外出が難しい状況ですが、ドライブで馴染みの場所を通ったり、これまでのかかりつけ医を継続している方は家族と受診に行っています。利用者には手紙を書いてもらったり、年賀状の支援を行い、年賀状を届けてもらった際には一緒に話をしてもらっています。また面会は窓越しに顔を見てもらっています。	

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	リビングの座席の配置等をスタッフ間で話し 合い、いろいろ検討しながら利用者様同士 がより良い関係を傷決ように努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	この1年はコロナウイルス感染予防のため 取り組めていません		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	意思表示が可能な方にはできるだけ本人の 希望、意向の聞き取りを行ってご本人の思 いにそってケアができるように努めていま す。困難な場合はご家族等に意見聴取をし たりご本人の立場になり考えるようにしてい ます。	入居前に病院等に出向き本人と面談し、家族には ホームに来てもらい話し合っています。生活歴や 趣味、特技、好きな物、希望、身体状況等を聞き 取りアセスメントシートにまとめ、別の書面に家族 にも記入してもらい、関係者からも情報を得ていま す。入居後は介護記録に残し、把握が困難な場 合は職員間で思いをくみ取りながら話し合い本人 本位に検討していますが、現在は選んでもらった り答えやすいよう声掛けを工夫し思いの把握に努 めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご家族や担当ケアマネージャー等に今まで の生活環境について情報収集し、自宅に近 い環境で生活を送っていただけるように努 めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	職員間でも情報共有を行い、ご利用者様一 人一人に合ったケアができるように努めて います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人の状況に合わせてカンファレンスを開 き、家族、医師、看護師、スタッフの意見 を聞き、ケアの方針を検討し、介護計画に反 映させています。	本人と家族の意向とアセスメントを基に介護計画 を作成し、状況に変化がなければ3カ月毎に計画 の見直しを行っています。毎月カンファレンスを行 い、見直し時にはモニタリングと再アセスメントし、 サービス担当者会議を開催し、利用者や家族の 意向を確認し、主治医や看護師、理学療法士等 の意見を聴取し計画に反映しています。また日々 の介護記録には計画の実施状況を記載していま す。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子や体調等を職員間で共有して います。個人記録は介護計画の見直しの際 に生かせるように利用者の状況をわかりや すく記入するようにしています。		

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ訪問看護の利用、デイでの催し物に参加検討等を行い、スタッフ間でも工夫しながら柔軟に支援を行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に一度の地域でのお祭り「おどるんや」の開催時にはご利用者、家族らと一緒に最前列で鑑賞できるよう地域の方々に配慮いただき楽しませていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人家族さんが希望されるかかりつけ医を受診していただいています。受診後はご家族、主治医から情報をいただくようにしています。	入居時に希望のかかりつけ医を聞いており、継続の方は家族と受診し、協力医は隣の建物にあり月1回の往診と必要があれば往診や受診に行っており、夜間は併設の訪問看護師に相談しています。職員として看護師が配置されており健康管理を受け、訪問看護師とは情報交換を行い、特別指示があった場合等に対応してもらっています。精神科や眼科は家族対応で受診し、歯科は必要に応じて職員と受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており、いつでも相談が可能です。また、何かあれば訪問看護も来てくれるので、いつでも相談できる状況です		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、その病院に早急に伺い入院前の情報を伝えています。退院前のカンファレンスにも参加し、情報収集を行い、医療的な処置が必要である場合も対応できるよう連携しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、終末期の在り方についての希望等をご本人、家族に伺うようにしています。また、状況に応じ、その都度、ご家族、本人、主治医等と話し合い方針を共有し支援に努めています。	入居時に看取り指針にそって説明をし、希望にそってホームでの看取り支援が可能な事を伝えています。実際に食事が取れなくなってきた場合は医師と相談し家族にも来てもらい三者間で話し合いを行い意向を確認しています。点滴等訪問看護師による処置等出来る限り対応し、更に医療を希望する場合は主治医の紹介で入院になる場合もあります。ホームでの支援の際は家族に頻回な面会や職員間で情報共有を行い医療と連携しながら支援を行い、ケース毎に看取り支援の勉強会や振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の介護で話し合ったり、研修も行っていきます。看護師の指導で初期対応や応急処置等行えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年はスタッフ間で年2回自主訓練を行いました。さまざまな場面を想定した訓練を行うようにしています。	コロナ禍以前は消防署の立会いがありましたが、今年度2回とも昼夜想定で独自で火災訓練を行っています。訓練は防災委員を中心に通報の練習や利用者も一緒にベランダまでの避難、歩く事が困難な方の布団を使った避難を職員が行っています。以前は運営推進会議時に訓練を行い民生委員等の参加を得ています。また備蓄は水や食糧、カセットコンロ等工夫しながら準備をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や着脱時の介助の際はカーテンをするなどプライバシーを損ねない工夫をしています。毎日の声かけについても尊厳を損なう言葉使いをしていないかなど職員間でも注意をしあい、尊厳とプライバシーの確保に心がけています。	接遇マナーや人権、認知症等の研修の中で尊重やプライバシー、関わり等を学ぶ機会があります。利用者には伝わりやすくやわらかい言葉掛けで接しており、関係性により場面によっては親しみのある言葉遣いをする事もありますが、語尾等が強い口調等に気付いた場合は職員間で注意し合っています。排泄介助時の声掛けの配慮や希望にそって同性介助にも対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつやおやつの飲み物等の希望をお聞きしたりご利用者さんにも自己決定してもらえる場面を多く持てるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の体調も考えながら、なるべくご本人の希望通りの過ごし方ができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされる方は毎朝、お風呂のあとお化粧をしていただくようにしています。洋服もご本人が着たい服を選んでもらうようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で毎食調理をしています。ご利用者さんが召し上がりたいと希望があったものは検食簿に記入しています。おやつもご希望を聞き手作りをしています。一人一人の好きなものにも気を付けています。食器の後片付けは手伝って頂いています。	法人の栄養士が立てた献立にそって厨房から食事が届き、献立には旬の物や暦の上での行事食等が考慮され、利用者の希望を検食簿を通して伝えていきます。またコロナ禍で回数は減っていますが押し寿司等食べたい物をホームで作る事もあり、おやつは手作りしたり饅頭や菓子パン等を提供しています。日々の中で食器拭き等後片付けを利用者に携わってもらっており、習慣である茶粥は朝食で提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は記録し注視しています。摂取量が少ないと思われるときは主治医に報告し、対応しています。一人一人の食べるペース食べやすい形態にし、ご自分で召し上がっていただけるようにしています。		

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人声かけ、見守り、必要な方には介助させていただき口腔清拭に努めています。また、毎食前、おやつ前にも、うがい、手洗いをさせていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用により、一人一人のパターンを把握し、トイレの声かけ、誘導必要な方は介助し、なるべくトイレでの排泄を行っていただけるようにしています。	利用者全員の排泄チェック表があり、時間を確認しながらパターンを把握し、医師の指示が無い限り日中はトイレでの排泄を支援し個々にそった声掛けや誘導を行っています。夜間は誘導やポータブルの使用、紙パンツやおむつへ変更する方等状況に合わせた対応をしています。日中は布の下着で過ごしている方もおり現状維持に努め、支援の継続により紙パンツから布の下着に変更になる方もおり自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量とも、注意しながら毎日体操等を行い身体を動かす機会作りにも努めています。排便感覚が長くあいている方には主治医に報告し、緩下剤を服用頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人に入浴時間等の希望を聞いて対応させていただいています。体調がすぐれず入浴拒否等あれば清拭対応させていただいています	入浴は週に2~3回、日中の時間帯の中で希望の時間を聞きながら支援しています。好みの湯温や長さで職員とマンツーマンでゆっくり話をしながら入ってもらい、柚子湯をしたり、利用者各個人のシャンプーやリンス、石鹸を持参しています。現在強い入浴拒否をする方はおらず声掛けの工夫でスムーズに入ってもらい、状況によっては清拭に変更する等の支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人ご自身の休みたい時間に合わせて居室の誘導等させていただいています。起きられる時間も決めていただき、その時間に居室へお迎えに行かせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全利用者様の服薬内容については、ファイルに入れ、何かあればすぐに確認できるようにしています。服薬時はスタッフ間で確認を行い、その方が服薬しやすい状態にし、服用頂いています。変化が見られた時は医師、看護師に報告しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に聞かせていただいた生活歴や普段の生活の中でご本人が好きそうなこと、得意なことをスタッフ間で考え、日常生活に取り入れています。ご自身の役割、楽しみ、張り合いのある生活を送っていただけるよう支援しています。		

たかまつグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は散歩等の外出は行っていませんが、時々行きたいところなど等をお聞きしてドライブに行っています。	コロナ禍で散歩等外出が難しい状況ですが、初詣や桜の花見、市役所等ドライブに出掛けたり、隣にある法人の病院の桃や桜を少し観に行き写真を撮る等、出来る範囲での外出を支援しています。また利用者によっては家族や職員と受診に行く方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所ではお金は預かっていません。必要なものがあればご家族様に連絡し持参いただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望があればご家族に電話しお話ししています。ご家族からの連絡があった時はご本人と変わりお話ししていただいています。毎月送らせていただいているお便りに、ご本人が書かれた手紙や塗り絵を同封させていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は季節の飾りをしたり行事の写真を飾ったりしています。飾り作りも手伝って頂いています。ゆっくりTVを見ていただいたり居心地よく過ごして頂けるようにしています。	共用空間には日当たりの良い畳スペースがあり休んでもらったり、座席の配置は利用者同士の相性を考慮しています。季節が感じられるように利用者と一緒に季節の作品を作り飾ったり、塗り絵の作品や行事の写真を掲示しています。また換気や手すりや椅子の消毒を徹底し、朝晩掃除をし、温湿度計や利用者の体感を聞きながら温度管理に配慮し、加湿器や空気清浄機を置き清潔で居心地良い空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者さん同士が楽しくお話ができるように座席の工夫をしたり、お天気が良い日は日向ぼっこをしながらお話を楽しんでいただけるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族ご本人の思うようになじみのあるものや写真等ご持参いただき居心地よく過ごせるようにしています	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、テレビやテーブル、よく座っていた椅子、ソファ等を持参し家族と相談しながら配置をしています。大切にしている家族の写真を飾ったり、趣味の昔撮った写真のアルバムを傍に置いている方やラジオを聴いたり、裁縫道具を持って来ている方もいます。また習慣に合わせて布団で休む事も可能で、掃除は毎日職員が拭き掃除を行い居心地良く過ごせるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人ができることは見守りを行いご自身で行っていただけるように支援させていただいています。普段からのレクリエーション、家事仕事、ご本人のできること、わかることをそれぞれに行っていただけるようにし、スタッフが近くで一緒にさせていただくようにしています。		